

特許は、発明に基づく製品の生産及び販売に関する権利を法的に保護するために非常に重要ですが、その出願状況を見ることで産業動向を分析する手段としても活用することができます。今回は、日本、米国、欧州、中国、韓国の5大特許庁への出願状況から、市場としての各地域の傾向及び出願者の国籍の傾向の視点で、医療機器産業の動向についてまとめてみました。なお、産業別に出願先・出願者国籍が公開されているデータが2013年までと多少古くなりますが、現在に通じる傾向を読み取ることができるため、紹介したいと思います。

図1に、5大特許庁に出願された医療機器関連の特許件数の推移を示しました。米国、韓国が微増傾向、日本、欧州が横ばいの状況に対して、中国は2006年から2013年の間で約3倍近くに増加しています。この数値は、国内だけではなく外国からの出願件数も含まれており、医療機器市場として、または生産地として中国が重要視されていることが表れています。

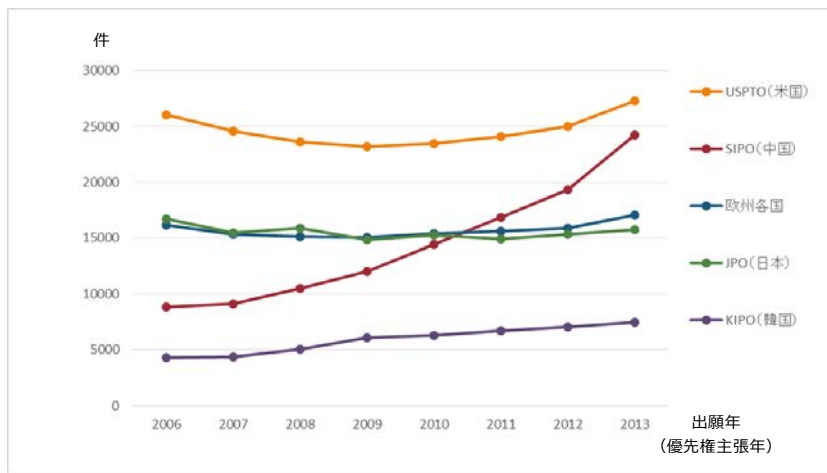


図1. 医療機器の出願先別特許出願件数の推移

(出典)特許庁 特許行政年次報告書 2018年版\*1 より作成

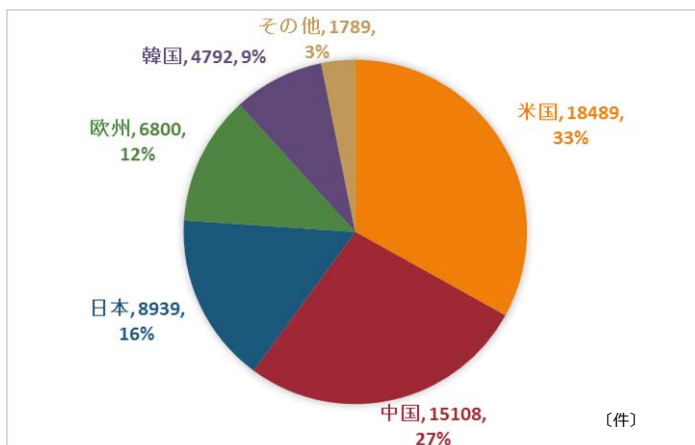


図2. 医療機器分野の出願人国籍別特許出願ファミリー件数 (優先権主張年：2013年)

(出典)特許庁 平成29年度特許出願状況報告書—マクロ分析—\*2 より作成

図2に医療機器分野の出願人国籍別の特許出願ファミリー件数を示します。この数値は、複数の国に出願された同一の発明を1件のファミリー特許としてカウントしていますので、出願人の国籍別に医療機器に関する発明がどの程度なされたかを見る指標になります。1位は米国、2位の中国は3位の日本を大きく上回っており、中国の企業や研究者等が海外市場も視野に入れて医療機器分野に注力していることがわかります。

様々な側面から中国の製造業の強化が報道されていますが、特許の側面からもそれが裏付けられることがわかります。今回示したデータは2013年までのものですが、中国政府は2014年に国産医療機器を優遇する政策を打ち出し、2015年には「中国製造2025」を発表しています。この中では、重点産業10分野の一つに「バイオ医薬・高性能医療器械」を挙げており、医療機器産業の振興に力を入れています。また、「中国製造2025」では、「イノベーション能力の向上」の指標として「有効特許件数」を掲げ、知的財産の強化により国際競争力を高めていく政策が示されており、今後もその動向を注視していく必要があります。

\*1 [https://www.ipa.go.jp/shiryoutoushin/nenji/nenpou2018\\_index.htm#0105](https://www.ipa.go.jp/shiryoutoushin/nenji/nenpou2018_index.htm#0105)

\*2 [https://www.ipa.go.jp/shiryoutoushin/pdf/gidouhoukoku/h29/29\\_macro.pdf](https://www.ipa.go.jp/shiryoutoushin/pdf/gidouhoukoku/h29/29_macro.pdf)

(医療機器政策調査研究所 中村 努 記)